

一人ひとりの想いをこめて・・・

《日本人拉致事件》の解決を！

北朝鮮による「日本人拉致事件」とは、北朝鮮の職員などにより、多数の日本人が極秘裏に北朝鮮に拉致された事件です。これは日本の国家主権に対する挑戦であり、国民の生命と安全を脅かすテロに他なりません。北朝鮮は長年事件への関与を否定してきましたが、2002年平壤で行われた日朝首脳会談で、ようやく日本人の拉致を認め、謝罪し、再発の防止を約束しました。

生きているのになぜ助けられない！ 北朝鮮という瓦礫の下から「早く助けて！」の声

約100人の日本人拉致被害者も、少なくとも世界12か国の拉致被害者も、自由を奪われながら、今も救出の日を待っています。生きている拉致被害者が北朝鮮にいるのに、なぜ助けられないのでしょうか。

政府を動かす大きな力は日本国民の世論です。政府が毅然とした対応を行うよう、国民の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



拉致は日本への主権侵害であると共に、《人権侵害》です。

「人権」とは、私たちが社会において幸福な生活を営むために必要不可欠な権利です。私たちは、他人の基本的な人権をお互いに尊重しあうとともに、それを自分たちの手で大切に守り 育てていかなければなりません。



愛の反対は憎しみではなく《無関心》 (マザーテレサ)

2002年10月15日、日朝首脳会談の交渉で拉致被害者5人が拉致された北朝鮮から日本へ帰国し、20年以上も引き裂かれていた家族との再会を果たしました。この背景のひとつには、拉致被害者の救出を目的とする「救う会」が中心となって集めた日本政府に対する当時200万（現在までに約700万）近い拉致解決の「要請署名」が大きく後押ししていることを忘れてはなりません。



ある日突然連れ去られた拉致被害者、そしてそのご家族の方々・・・、
もし自分が、自分の子供が、親が、親戚が、友人が、同じ立場に立たされたら・・・。

拉致事件はまだ解決されていません。一人ひとりの想いをこめて、より多くの方に拉致事件に関心を持っていただく事が「拉致事件解決の原動力」になります。

皆さまの温かいご支援のお気持ちこそが頼りです。どうぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。



ブルーリボン運動

ブルーリボンには真っ青な空と日本海の青を表現しています。近くて遠い国の関係である日本と北朝鮮の間で、空と海だけが国境無しに続き、拉致被害者とその家族や日本人が空と海を見上げて、同時に再会のときを想定していることを意味する。



「日の丸つきブルーリボンバッジ」に込めた想い
横田めぐみさんの父、横田滋さんは以前ある取材で、
「めぐみが日本に帰ってきた時には、大きな日の丸でめぐみを包み込み、しっかりと抱きしめてあげたい！」
と語られました。



ブルーリボン

検索